

風土記の丘の花だより²⁸⁶

今、そしてこれから見られる植物(2025年8月16日)

やっと雨が降ってくれました。これで草木も少しは喜んでいることでしょう。早いもので、もう8月も半ばです。盆がすぎ、残暑が厳しくなってきました。さて、この花だよりですが、勝手ながら9月のはじめ頃までお休みをいただこうと思います。ご了承ください。



船屋の南の山裾でウバユリが咲きました。去年は咲きませんでしたでしたが、今年は3株で開花を確認しました。多くのユリはうつむいて咲きますが、ウバユリは横向きに咲きます。ウバはお婆さんのことで、花が咲く頃には葉がないことから、葉がない、歯がない、おばあさん という発想で名付けられたという説がありますが、葉は枯れずに残っていますよね。はて？この前、ある人が、今年はイノシシがウバユリのゆり根を食べて、花が少ないと言っていました。ここではまだそんな被害は出ていません。



なんと地味な花でしょう。というか花にも見えませんね。サンカクイという水生植物の花です。名前は「三角形のい草」という意味ですが、イグサではなくカヤツリグサの仲間です。カヤツリグサやイネの仲間の花は、まあこんな感じで、華やかな花びらを持ちません。これは自生ではなく、万葉植物園の水生植物のコーナーに植えられています。万葉の時代には「しりくさ」と呼ばれていました。また、先が尖っているので、「鷺(さぎ)の尻刺し」という名前もあるそうです。様子を想像すると面白いですね。



少し前の花だよりで「もう少し涼しくなったら咲くでしょう」と予告していたリュウキュウヤブランの花が咲き始めました。まだまだ暑いのにね。別名をコヤブランと言います。確かにヤブランよりは小型で、葉の幅も狭く、細長く見えます。ヤブランが一株ずつかたまて生えるのに対して、これは横に広がって広い範囲に生えます。名前にランと付きますが、前まではユリ科に分類されていました。今はキジカクシ科に分類されています。



万葉植物園の水生植物のコーナーにシロバナサクラタデの花が咲いています。名前のとおり、花は真っ白です。タデの花はピンク色や赤っぽいものが多いですが、こんなに白い花を咲かせるのはこのタデぐらいです。水辺によく生えますが、野外では生えている所が段々少なくなっているように感じます。水と陸の境目がコンクリートなどで固められ、水を好む植物の生える場所が段々狭くなってきていることも原因の一つでしょう。

松下